

## 【レポート】

2005年に誕生した豊後大野市は合併後、7つの町で独自に市民と協働のまちづくりに取り組んできました。しかしながら、少子高齢化と人口減少といった課題を抱えています。それぞれの町の特徴を生かし、アイデアと工夫により、市民と協働のまちづくりにより、地域に元気と勇気を与えつづけている「清川まちづくり協議会」の8年間を見つめてみました。

# 「清川まちづくり協議会」がすすめる地域再生への道 — 「きよかわさくら街道プロジェクト～未来へつなぐ道～」8年の歩み —

大分県本部／豊後大野市職員連合労働組合 佐藤 君代

## 1. はじめに

豊後大野市が誕生し、19年目を迎えました。合併以前は7か町村がそれぞれの自治体で地域の風土や伝統・文化を生かした「まちづくり」がすすめられてきました。豊後大野市となった2005年以降は、各町ごとに「まちづくり委員」が設置され、市長の諮問機関として、市のまちづくりに関する提言を積極的に行ってきました。

2015年度から、「まちづくり協議会」を豊後大野市における参加と協働によるまちづくり推進のために7つの町に設置し、協議会のメンバーは公募や公共的団体等の推薦者で構成されました。各町の協議会の庶務は本庁のまちづくり推進課と各支所が担当することになりました。予算規模は役員の報酬等が主体のため「まちづくり協議会」が積極的に取り組める事業は限定的となっていました。

2016年度からは、「将来にわたって市民が誇りを持てる個性的で魅力ある地域社会を実現するため、地域の活性化や課題解決に取り組む市民による自主的なまちづくりを支援することを目的に」4年間の期間限定で「豊後大野市まちづくり創生交付金事業」が交付されることになりました。この事業の交付対象団体は、各町の「まちづくり協議会」となり、事業計画の策定がすすめられました。

## 2. 清川まちづくり協議会の取り組み

「清川まちづくり協議会」は、地域の宝として、永年多くの人に親しまれた御嶽山に続く林道沿いの「桜」並木の再生を一つの目標に掲げました。御嶽山に続く林道沿いの「桜」並木は、1967年3月から地元の老人クラブの200本の「桜」の植樹から始まりました。以後数年にわたり、病害虫や苗木の手入れや新植を行いながら、3,000本の桜並木となりました。

当時の桜といえば「ソメイヨシノ」が主流であり、50年という時間の経過とともにテングス病や自然環境の変化等の影響で次第に樹木の衰えが現れてきました。2015年度からの新生「清川まちづくり協議会」は、瀬戸内オリーブ基金や緑の募金事業等の助成を受け、まず苗木と資材を購入し、町内外にボランティアを募集し、桜の植樹による再生事業をスタートさせました。

2016年度から2019年度の4年間は豊後大野市



まちづくり創生交付金事業や瀬戸内オリーブ基金等の助成により、「きよかわさくら街道プロジェクト～未来へつなぐ道～」として、御嶽山の桜ロードの再生事業を積極的にスタートしました。また、苗木の品種については「ソメイヨシノ」がクローンであるため、テングス病の蔓延を招くとされ、病気に強い品種の「ジンダイアケボノ」への植え替えがすすめられました。

行政主導の地域づくりや地域おこしといった事業は、役所まかせの感じになりがちです。「清川まちづくり協議会」では市民が主体的に「まちづくり」に取り組むための手段として、50年も昔、地元老人クラブにより作られた桜並木による地域の「宝」を再びよみがえらせ、未来の子ども達につなげていくために、多くの市民からの理解と協力がプロジェクトをすすめるうえで、大きなウェイトを占めると考えました。



そこで、「清川町まちづくり協議会」は、御嶽山に続く林道沿いの桜並木が形成された歴史とこれからの地域の未来について、一緒に考えていくためシンポジウムを開催することになりました。

2017年1月29日に開催されたシンポジウムでは樹木医による桜の植樹と管理についての専門的な講義と、桜がもたらす効果や全国の桜の名所等の紹介がありました。また、桜を植樹する再生事業によって、景勝地として多くの人が訪れ、「癒やし」の地となり、地域

活性化へと導くためのパネルディスカッションを、若い世代と観光ボランティアガイド等をパネラーにむかえ実施しました。

また、あえてプロジェクトのサブテーマとして、「未来へつなぐ道」としたことは、「多くの子ども達にもこのプロジェクトに参画してもらい、将来、清川を、豊後大野を離れても、ふるさとはかけがえのない、自分たちの手による桜街道があることを思い出して欲しい。」という、協議会のメンバーの熱い思いが原点になっています。



2017年3月12日はオープニングセレモニーを開催し、保育園の子どもから小・中学校の子ども達そして高校生を含め、200人近い参加者の記念植樹の式典となりました。

2016年度は「豊後大野市まちづくり創生交付金事業」スタートの年にあたり、一つひとつの試みに多くの市民の賛同を得られたことは、プロジェクトへの大きな一歩となり、以降の事業展開へのはずみになりました。

以下は、2015年度から8年間にわたり「清川まちづくり協議会」が実施した御嶽山桜ロードの再生事業です。

2015年度：ボランティア参加延べ人数150人、ソメイヨシノ120本植樹、中学校卒業記念植樹

2016年度：ボランティア参加延べ人数201人、シダレザクラ100本植樹、中学校卒業記念植樹。

桜植樹オープニングセレモニーの開催。

2017年度：ボランティア参加延べ人数177人、シダレザクラ12本、ジンダイアケボノ100本植樹、中学校卒業記念植樹

2018年度：ボランティア参加延べ人数195人、ジンダイアケボノ73本、中学校卒業記念植樹、御嶽山に続く林道沿いに「紅葉の森」を造成するため、モミジ、イロハカエデ等落葉広葉樹、コウヤマキ等の常緑樹を全部で300本植樹

2019年度：ボランティア参加延べ人数195人、シダレザクラ10本、ジンダイアケボノ20本植樹、中学

### 校卒業記念植樹

2020年度：ボランティア参加延べ人数114人、ジンダイアケボノ60本植樹、中学校卒業記念植樹

2021年度：ボランティア参加延べ人数123人、シダレザクラ6本、ジンダイアケボノ55本植樹、中学校卒業記念植樹

2022年度：ボランティア参加延べ人数20人、ジンダイアケボノ2本植樹、モミジ10本中学校卒業記念植樹

## 3. 「清川まちづくり協議会」がめざすもの

2020年度以降、行政からの財政的な支援はなくなりましたが「清川まちづくり協議会」は市民提案型まちづくり活動推進事業や寄付金、瀬戸内オリーブ基金等の助成を受けながら、地道にプロジェクト事業をすすめています。事業計画を自ら考え、年間の活動を主体的に実施していく組織となりました。このように市民団体であるまちづくり協議会が積極的に地域活性化に取り組むよう背中を押したのは、2016年度からの4年間の活動実績だったと思われます。

実はその協議会には行政経験のあるメンバーが関わっています。旧清川村時代に清川村職労として労働運動に深く関わってきたOBの姿がありました。旧清川村職労の労働運動は、地域の産業・経済の振興と人々の暮らしを大切にすることを常に念頭に置いていました。自治体職員を引退しても、地域の人と人とのつながりを大切にしながら、地域のために考え行動する活動を行ってきました。

また、「清川まちづくり協議会」が実施してきた事業のボランティア参加者の中には、常に村職OBや市職OBの姿があり、本格的な活動が始まる2015年度以前から、自主的に「桜」の消毒作業や、支障木や古木の伐採等にも取り組んでいました。

2017年度からは、伐採した桜の古木に「なめこ茸」の種駒12,000個余りを植菌し、将来的に収益性のある事業への取り組みをすすめました。また、「なめこ茸」を原料にした食品開発を行い、道の駅「きよかわ」で商品として販売することになり、まちづくり協議会主催のイベント事業での活用も視野に入れています。

2022年度は「御嶽山桜ロード再生事業」の8年間の歩みをふりかえりながら、次世代につなげていく取り組みをスタートさせました。これまでの瀬戸内オリーブ基金等をはじめとした、企業からの助成等をもとに自然環境や水源涵養の保全を主体にした持続可能な活動へ広がりを見せました。

その一つが2023年3月25日実施の「第1回清川町 絶景・御嶽さくらロードウォーキング大会」です。御嶽山頂に続く林道の2キロコース、4キロコース、8キロコースを満開の桜と林道からの眺望や山裾に点在する山桜を楽しむウォーキング大会として開催しました。



当日は、最年少は2歳、最年長者91歳まで約200人が参加しました。満開の桜並木と、久住連山・阿蘇山等を展望する素晴らしいウォーキングコースであることから、次回開催を期待する声が多く寄せられました。

2023年度は、8年間に植樹した桜苗木とモミジ等の落葉樹を育成・管理しながら、観光資源として活

用でき、地域振興につながる活動を続けていくことを当面の目標にしています。また、7月には協議会のメンバーで「瀬戸内オリーブ基金」の事務局のある香川県小豆島を訪れ、環境保全活動の取り組みについて研修を行う予定です。

#### 4. まとめ

今回は「清川まちづくり協議会」の活動について取り上げさせていただきました。

豊後大野市では、2016年度の交付金事業以降、協議会ごとに様々な事業をすすめていきました。2020年度以降、交付金による助成はなくなり、市民提案型のまちづくりへシフトしていきました。それぞれの町で、市民の知恵と工夫による「協働のまちづくり」を推進し、地域に元気と希望をあたえています。

豊後大野市のジオサイトやエコパークを活用した観光資源とのコラボによる「ウォーキング大会」や「ウォークラリー」等、自然との調和や景観を意識したイベントが今後実施される予定です。

以前から自治体を実施するイベントは、ややもすると地元の経済効果や継続的な活動への期待は薄かったように感じます。「行政の予算で実施されるから、実感がわかない。役所が行うことに何となくのっかる」といった雰囲気が漂っていたように感じます。

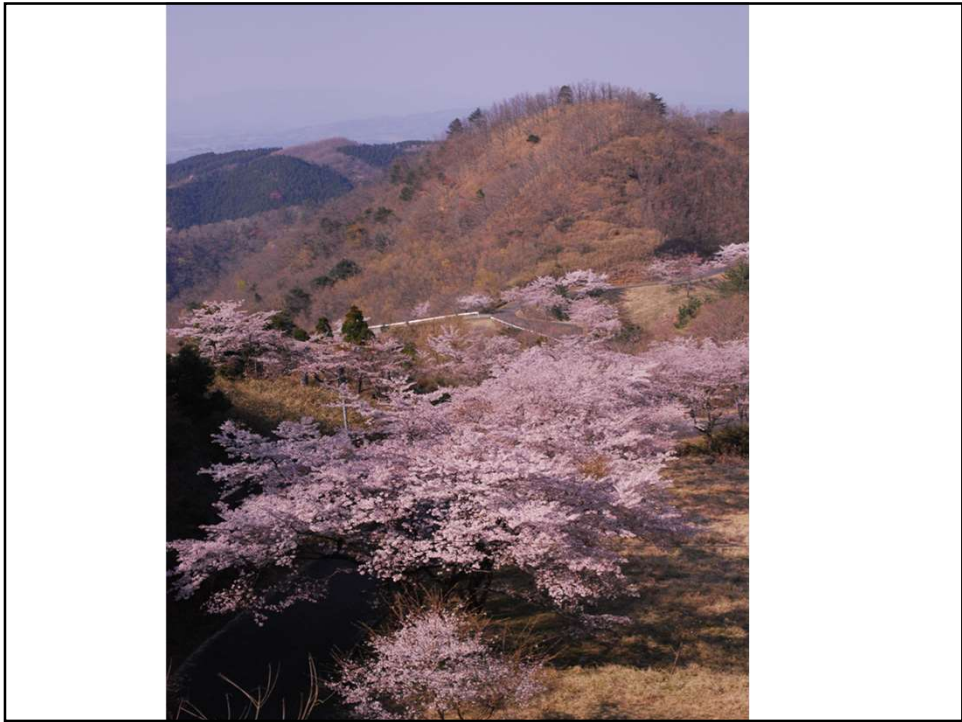
豊後大野市での取り組みは、市民自ら課題を模索し、主体的に関わっていくことで、実態に即した「まちづくり」が創造され、地域に暮らす人々は元気になり、地域経済の活性化につながるものと考えます。

現在「清川まちづくり協議会」は、御嶽山林道沿線の桜並木と周辺に広がる公園の植栽については、育成と管理を年次計画としながら、人々が集う場所づくりのための桜の植樹も視野にいたした「さくら街道プロジェクト」をすすめています。2023年度からは、協議会に若いメンバーが新たに加わりました。協議会の取り組みが、住民の共感を得、「自分たちで、なんとかせねば！」という機運の広がりによるものと感じます。

「清川まちづくり協議会」には、先人が残した地域の「宝」となった桜街道を再生しながら、「まちづくり」が市民のライフワークとなり、若い世代にも継承され、持続可能な取り組みとなるよう期待がもたれます。

小さな町の大きな夢・未来に私たちも関わっていきたいと考えています。



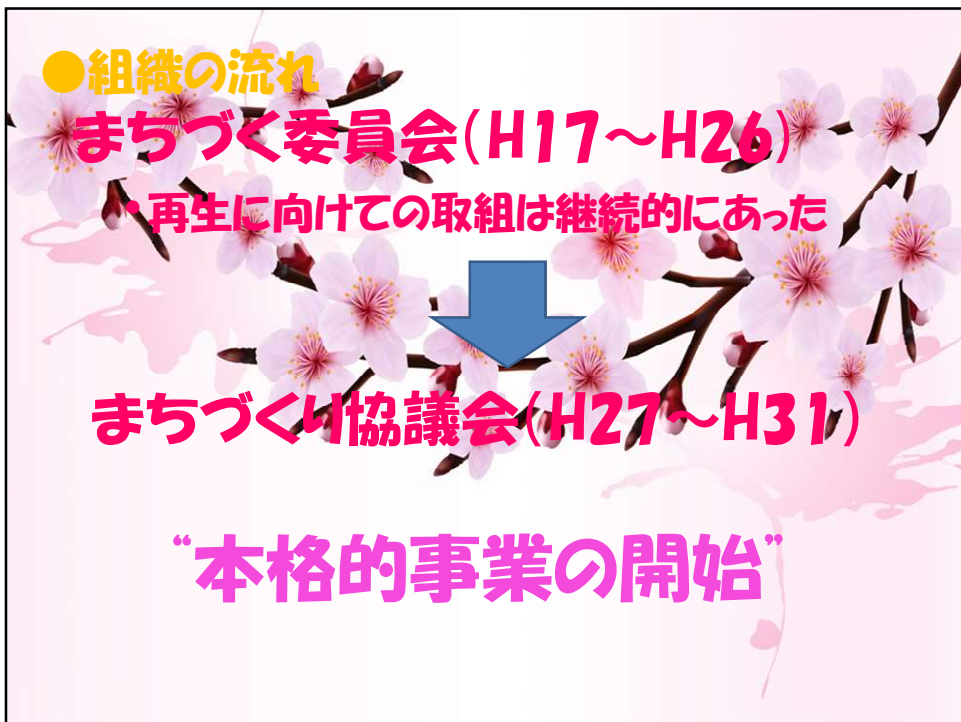


「御嶽山の林道の桜並木」は50年ほど前に宇田枝老人クラブがはじめた」



1. 敬神思想の高揚
  2. 愛郷精神の涵養
  3. 平和な村づくり
  4. 村民のやすらぎの地、いこいの場
  5. 老人の最後の奉仕奉公
- をスローガンに5カ年の継続事業として計画実行されたものです







**これまでの経緯**

平成24年から「まちづくり委員会」で御嶽林道の「桜」の保全活動を始めた



**「緑の募金事業」による桜苗の植樹**



## 平成24年度から継続された「桜」の管理作業



## 清川まちづくり協議会発足(H27)

### ●事業が活発化する

- ・瀬戸内オリーブ基金の活用(ソメイヨシノ100本)
- ・緑の募金の活用(ソメイヨシノ10本)

小・中学生の卒業記念植樹も兼ね園児から老人クラブと言った幅広い年代で参加してもらい植樹イベントを行った。

世代間を越えて幅広い交流ができて次世代に繋ぐイベントができた。

**この活動を契機に**

**H28年度はさらにバージョンアップ**

# 平成27年度の取組みについて



豊後大野市のまちづくりとは



「地域コミュニティ活動の推進」  
「協働によるまちづくりの推進」

「豊後大野市まちづくり地域計画づくり」

## H28年度から

- 国からの「地域創生加速化交付金」を活用するにあたり、第2次豊後大野市総合計画、通称「ぶんごる」の中で、「市民による参加と協働のまちづくり推進事業」を策定し、
- 平成28年度～平成31年度の4年間で、それぞれの町のまちづくり協議会が「1千万円」を上限に、「人も自然も幸せなまち」の 実現に向け地域活動の展開をすすめる事になった。

清川まちづくり協議会とは

### 清川の将来ビジョンとなる 「まちづくり地域計画」を策定

- ①シンポジウムの開催
- ②御嶽林道の「桜」植樹事業



平成28年度は樹木医による診断も実施



## 事業の目的

地域の誇りとシンボルとして

**「きよかわさくら街道」**

の再生による

桜とまちづくりについて考える

## 平成29年1月29日開催 シンポジウム

清川の将来ビジョンとなる「まちづくり地域計画」を市民そして町民に理解を得るためにシンポジウムの開催

- ①樹木医「田邊 勇」氏の後援
- ②パネルディスカッション（清川のこれからについて）



## 地域の誇り「御嶽山の林道の桜並木」





## 3つのステージ

### 1つ【御嶽山桜ロード】

- ・H28年度シダレサクラを100本新植した
- ・H29年度はジンダイアケボノを100本新植する予定
- ・H30年度は「紅葉の森」の造成で紅葉の木を  
330本植樹する計画

### 2つ【収益事業】

- ・樹木を維持管理していくうえで、協議会独自の商品開発が必要
- ・御嶽管理センターを有益な施設として活用検討

## 紅葉の森予定地



### 3つ【ハイブリット事業】

- ・集客を目的とし、イベントの開催を行う
- ・定住促進を図るために空き家調査をし、空き家バンクへの登録斡旋

### 《協議会の課題》

- H31年度までは市からの交付金があり植樹活動などが行えるが、それ以降は活動資金の調達が厳しい
- 若年層のボランティア育成





# 出来ることで 「きよかわ さくら街道」 を盛り上げよう!

さくらカラオケ大会

さくらマラソン

さくらウィーキング

さくらスイーツフェア

さくら句会

お花見ボランティア

さくら見守り隊

さくら神楽

さくらマルシェ

さくら弁当

ひとり・ひとりに「桜の思い出」を作ろう

# ふるさと 清川の「宝」のために 出来ることは？



## 植樹後の管理状況



## ボランティアによる古木の伐採作業



## H29年度中学校記念植樹 H29・2・14



お礼のことは・・・  
今日は天気に恵まれ中学校記念に残る体験をさせていただきありがとうございました。成人になったら彼女と連れて観に来ます。

## H29度植樹祭 H30・3・11



## H29度植樹祭 H30・3・11



参加者：130名

